Q-AOS 九州大学 アジア・オセアニア研究教育機構　ブラウンバッグセミナー

Brown Bag Seminar No.233

2026 6.3(水) 12:10〜12:50

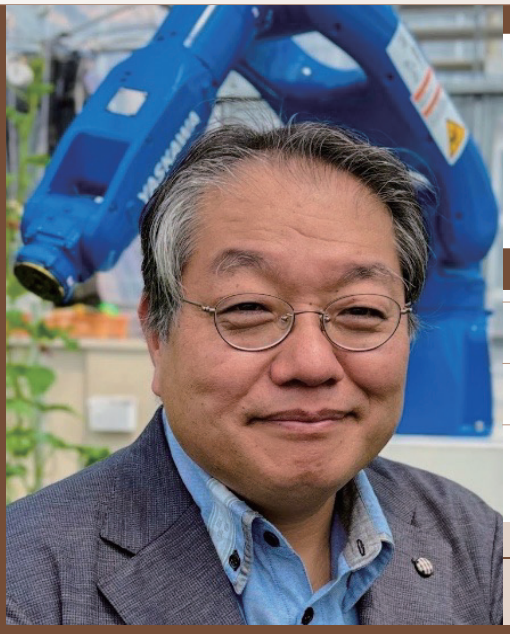
12:10-12:15 ◆発表者紹介
12:15-12:40 ◆プレゼン
12:40-12:50 ◆質疑応答

オンライン (Zoom)
登録はこちら

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_hMimj_KESzi7Xae-oNVA4Q

【技術支援】九州大学 Q-AOS

農家の目を代替する植物センシング技術は作れるか？



2 飢餓をゼロに　7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに　9 産業と技術革新の基盤をつくろう　12 つくる責任つかう責任　13 気候変動に具体的な対策を　15 陸の豊かさも守ろう

Key Words
高速植フェノタイピング
マシンビジョン　AI　デジタルツイン
データ駆動型農業

岡安 崇史 教授
九州大学 農学研究院 環境農学部門

出身地は愛知県です。九州大学大学院農学研究科にて 1999 年 3 月に博士（農学）の学位を取得しました。その後、本学ベンチャービジネスラボラトリー非常勤講師、学術特定研究者を経て、2002 年 1 月に本学大学院農学研究院・助教授、准教授を経て、2022 年 4 月に同教授に昇任、同年同月に高知大学 IoP 共創センター特任教授（クロスアポイントメント）に就任しました。主な研究テーマは、データ駆動型農業技術および農業機械の設計・開発をはじめ、計算力学の農業システム工学分野への応用です。データ駆動型農業と計算力学の応用に関連する研究プロジェクトにも複数取り組んでいます。国内外の学術誌や国際会議論文集を含む 270 報以上の研究論文の発表や、分担執筆者として 9 冊の書籍出版に寄与しました。基調講演、招待講演、特別講演として 80 回以上の講演を行っています。

農業の高齢化に伴い熟練農家の「経験と勘」の継承が課題となる中、農家の「目」を代替する植物センシング技術の開発が注目されています。その中核となる技術が、AI とロボティクスを活用した「高速植物フェノタイピング技術」です。自律走行ロボットが植物を自動で撮影し、AI が果実の数や状態、成長などを的確に抽出するほか、3D 再構成技術を用いて植物の特徴量をより高精度に計測できるようになってきました。これらの技術のさらなる性能向上に向け、デジタルツインの応用も始まっています。熟練農家の視覚的判断をデジタル技術によって代替することができれば、データ駆動型農業をより一層発展させることができると考えています。

Contact Information　Kyushu University Institute for Asian and Oceanian Studies (Q-AOS)　744 Motooka, Nishi-Ku, Fukuoka-City, 819-0395, JAPAN　Tel: +81-092-802-2605